

函館市コミュニティ・スクール講演会 開催報告

パネルディスカッション コミュニティ・スクールを核とした
地域とともにある学校づくりにあたって

(コーディネーター)

地域・PTAの立場から佐藤様から、企業の立場から藤澤様から、コミュニティ・スクール(CS)を進めている先生方にご質問をいただきたいと思います。

(パネリスト：函館市PTA連合会顧問 佐藤 敬一 氏)

私は昨年まで函館市の教育委員を務めており、その際に五稜郭中学校にCSを導入するという話が出ていたので、現在どのような形で取り組まれているかお話をお聞きしたい。また、CS委員の構成や、会議における教師の参加について教えていただきたい。

(パネリスト：函館市立五稜郭中学校校長 風間 和夫 氏)

まず導入にあたってですが、五稜郭中学校は桐花中学校、大川中学校、五稜中学校の3つの中学校が統合して開校した学校なので校区が非常に広く、校区内に20町会、5小学校を抱えることになりました。約600名の生徒を学校だけで掌握するのは大変なので、統合にあたってCSを導入してはどうかというお話をいただき、校外生活などの面において地域の方々の協力をいただくことができれば助かると思いました。

現在は既存の学校行事と結びつけた取組を行っており、町内会と合同で地域合同防災訓練を実施したほか、学校運営協議会委員を講師に迎えて非行防止教室、薬物乱用防止教室を行いました。また、11月には地域の方を交えた全校合唱集会を予定しています。

CS委員については、統合前の3校の学校評議員のうち、各校の校長から推薦をいただいた3名と私を加えた10名であり、構成としては、PTA会長のほか、大学教授や町内会連合会の会長、高校のPTAなどがおります。

学校運営協議会の会議には教頭と主幹教諭が事務局として参加しています。会議参加への負担については、もともと学校評議員制度がありましたので、回数が少し増えた程度でそれほどでもないと感じています。

(佐藤顧問)

続いて、道南で最も早くCSを導入した知内町湯ノ里小学校での取組についてお話を伺い

たい。

(パネリスト：函館市立大船小学校校長 鈴木 敏文 氏)

前任校の知内町立湯ノ里小学校で、CSの立ち上げから関わらせていただきました。全校で約30名というごく小規模の学校で、地域の人口も500名足らずであり、地域・学校の活性化が急務とされており、地域密着型のCSを目指していました。

4つの活動をメインに行っており、地域を活かす活動では、主に地域の人材の活用を行い、見守り隊や、子どもたちが見守り隊の方に教科書の一節を読んで聞かせる活動などを行っていました。地域を学ぶ活動では、地域を教材化し、自然監視員や林業組合員などの専門家を講師として地域の自然を学習しました。地域に還す活動として地域行事に積極的に参加し、さらに、地域と一緒に学ぶ活動として、学校を会場として地域の方が参加する夜間大学の開催などを行っていました。

学校運営協議会には町内会や婦人会、同窓会などの地域にある各団体の会長に入っただき、それらの団体がそのまま学校の大応援団となりました。学校運営協議会には学校側から校長、教頭、担当教諭1名が参加していました。

運営に関わることの多忙感については、行事の内容が導入以前に比べて濃くなったことや、案内する方も増え、若干負担も増えました。しかし、子どもたちへの教育効果が高くなったことや地域のみなさんの学校運営に積極的に参画してくれる姿に、自分たちの教育活動に対する納得感が高まり、さらに充実した教育活動へつながり、やりがいもありました。

(パネリスト：一般社団法人はこだて地方創生研究会 副代表 藤澤 義博 氏)

15年ほど前までは地域に開かれた学校ということで、地域の方が集まって子どもたちを複数の目で見育てていこうという観点がありましたが、子どもを狙う事件の発生によって、学校を安全にするために閉ざされてしまったという経緯があります。

今またここに開かれた学校づくりが始まるわけですが、グローバル社会において、世界を相手に戦って活躍できるよう子どもたちを育てることは、保護者をはじめ地域の方々の協力なくしては難しいと考えています。これからCSを導入してくことで、どのように環境が変わっていくのか現場の声を伺いたい。

(風間校長)

学校運営協議会での熟議を重ねることで色々なアイデアが出てきました。町会館を使って寺子屋を作る案や、大学の留学生の英語授業への活用、五稜郭の歴史についての学習のほか、子どもたちの声を直接聞くための座談会を行う予定です。

全て実現できるかどうかは分かりませんが、学校・家庭・地域社会が子どもたちのために何ができるかと同じベクトルで真剣に考えているのだと実感しています。

(鈴木校長)

開かれた学校という観点では、湯ノ里小学校では学校のホールに大人用の書棚を用意し、地域住民に学校へ足を運んでいただくようにしました。知らない人が来ればすぐに分かるようになり、学校をオープンにすることで学校の安全が図られることになったと考えています。

(佐藤顧問)

櫻井講師はCSの導入にあたって、登別市の町内会に積極的にアプローチをされていたのですが、CSについての認知がまだ進んでいない中で、町内会の方にどのように理解を深めていただいたのでしょうか。

また、町内会の役員のみならず手が少なくなっている中、町内会がCSに関わることが難しくなっているのではないのでしょうか。

(パネリスト：北海道CSアドバイザー・基調講演講師 櫻井 貴志 氏)

学校運営協議会やCSという言葉を使うのではなく「子どもたちを育てるために、先生だけではなく、地域の力を借り、お父さんお母さんに改めて考えてもらうための仕組みを作るのです」ということを町内会の集まりの中で説明させていただきました。また、「口出ししたいことはあると思いますが、そこを我慢して、子どもたちのためだと思って協力してください」とお願いしました。

人材が少なくなってきた中での工夫については、運営協議会でCS通信を作り回覧板などで地域に届け、町内会の役員までは無理だけど学校で何かやる時は協力したいという方を集めるよう努力し、見守りに関しても、下校時刻に散歩がてら通学路を歩いてくださいというような協力をいただきました。

(藤澤副代表)

CSの導入によって、社会で活躍している方の講演会などや課外授業がやりやすくなると聞き、生きた活用ができる可能性が広がるものと期待しています。私は学校と海外の企業とをマッチングして海外企業への研修事業などを行っていますが、学校として、企業や保護者側に対してもっとこうして欲しい、このような助けがあるとCSはもっと良くなる、という事例があれば教えていただきたい。

(櫻井講師)

各学校では学校段階に応じてキャリア教育を行っていますが、最も困っているのは職業体験を受けて入れてくれる企業が少ないことです。企業の方から学校に協力したいと手を上げていただくと助かります。

また、学校での講演会については、お金を稼ぐことだけでなく、生活にどのように関わっているか、どのように社会貢献につながっているかを話していただき、先生方が得意でない部分について助けていただきたいと思います。

(佐藤顧問)

P T A と C S の関わりについて、町内会の役割と重複する部分が多いと思いますが、その住み分けをどのように考えているかお聞きしたい。

(櫻井講師)

学校運営協議会は会議をするための合議体と言われており、一人の意見ではなく、全体で話し合っ物事を決めていこうという組織ですから、色々な組織と連携を図りながらより良い子どもの育て方を考えていただきたいと思います。

(コーディネーター)

最後にみなさんから一言ずつコメントをいただきたいと思います。

(風間校長)

3校が統合した五稜郭中学校は心配されることが多いのですが、学校が楽しいという子どもが非常に多いと感じております。特に体育大会では、それぞれ元の学校のジャージを着た子どもたちが一つの輪になってエールを掛け合う姿を見て涙が出ました。

また、合同校長会において教育長から、C S はまずやってみることが大事だという話をいただいて力強く思い、昨年からC S を導入して良かったと思っています。

(鈴木校長)

C S によって学校に様々な方が出入りするようになって、ガラス張りではなく、網戸張りの学校になったと思っています。ガラスでは外の温度や声分からないことがありますが、網戸ですと常に外との温度差を感じ、地域のみなさんの声を聞き、学校で頑張っていることを地域に伝えやすくなります。こうして思いを共有することで学校支援、学校理解につながり、地域の活性化にも十分につながり、地域に住む子どもたちの健やかな成長に良い影響を

与えるものだと確信しています。

(佐藤顧問)

この講演会に先立って、町内会の会議において、現在行っている行事をもっと深く突っ込んだ形でできることがないか検討しました。子ども会を立ち上げてリーダーシップを養成するなど、子どもたちの健全育成に関わっていきたいと考えています。

また、PTAの運営方針には必ず地域との協力を求める内容が入っています。CSの導入によって、子どもたちが楽しく通い、学ぶことができる学校になり、安心して暮らせる地域、心安らぐ家庭を充実した形で作ることによって、昔の子どもたちのように屈託のない笑顔で溢れる地域にしていきたいと考えています。

(藤澤副代表)

これからの社会で活躍するためには、読み書きや計算などのIQで測ることができる認知能力よりも、目標に向かって頑張る力やコミュニケーション能力などの非認知能力が重要になってくると言われており、このような力を育成するために私たちは函館市内で『てらこや』という活動を行っています。変化する社会において変化を恐れないため、我々大人に何ができるのかを常に考え続けなければ大変な環境にあるのだということを理解していただきたいと思います。

子どもたちの可能性は無限大です。その可能性を伸ばしてあげられるのは我々地域の大人だと思っています。今日ここに参加いただいたみなさんは非常に意識が高い方々だと思いますが、それぞれの学校や地域に戻られた時に、今日ここで聞いた話を一人でも多くの人に伝えることが大事だと思っています。

(櫻井講師)

これをやったらすぐに子どもたちが変わるということはないので、絶対に成果を急がないでください。子どもたちを取り巻く環境を少し良くするという程度で捉え、そのような積み重ねがきっと子どもたちの姿に表れてくると期待して取り組まなければ、良い案があっても進まないと思います。肩の力を抜いて、うちの地域ではこういうことをやっていこうと考え、実際に子どもたちのために活躍していただきたいと思います。

講 師・パネリスト

○櫻井 貴志（さくらい たかし）氏

北海道CSアドバイザー・伊達市教育委員会教育部参与

函館市生まれ。函館市立高盛小学校・函館市立光成中学校出身。弘前大学卒業後、登別市立幌別小学校教諭などを経て、2013年に登別市教育委員会教育指導室指導主幹に就任し、登別市内の全小・中学校へのコミュニティ・スクール（CS）導入の中心となって尽力。現在は伊達市教育委員会教育部参与を務められている。

2016年から北海道CSアドバイザーに就任。道内はもとより、全国各地で助言・講演を行うなど、CSの普及に向けて精力的に活動中。

パネリスト

○藤澤 義博（ふじさわ よしひろ）氏

一般社団法人はこだて地方創生研究会 副代表

函館稜北高校卒業、札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科修了。現在、日本航空株式会社マイレージ事業部マネージャー、函館日本語教育研究会会員(日本語教師)。

主な公職として、NPO法人全国てらこやネットワーク理事、函館てらこや顧問、2009年一般社団法人函館青年会議所理事長、元北海道教育大学附属函館幼稚園PTA会長・学校評議員、元全国国立大学附属学校PTA連合会北海道地区副会長、前立命館慶祥高校保護者会会長・学校評議員。

○佐藤 敬一（さとう けいいち）氏

函館市PTA連合会 顧問

2009年に函館市PTA連合会会長に就任。その後は北海道PTA連合会副会長、函館市教育委員など多くの教育団体関係委員に就任し、PTAと行政・関係機関との連携強化に尽力。現在は函館市PTA連合会顧問を務められている。

主な公職として、「函館の教育を考える会」会長、函館市いじめなど対策委員、函館市学校教育審議会委員、「社会を明るくする運動」実施委員会委員、など。

○風間 和夫（かざま かずお）氏

函館市立五稜郭中学校 校長

北海道教育大学函館分校中学校課程卒業後、鹿部町立鹿部中学校教諭などを経て2012年から函館市立白尻中学校校長、函館市立桐花中学校校長を歴任。2016年に大川中学校・五稜中学校・桐花中学校の3校が統合し、五稜郭中学校が開校したことに伴い、現職に至る。

函館市で最初のCS導入校として地域との連携に精力的に取り組んでおり、幼稚園・町会と合同による地域合同防災訓練、地域住民を講師とした非行防止教室などを実施している。

○鈴木 敏文（すずき としふみ）氏

函館市立大船小学校 校長

北海道教育大学函館分校小学校課程卒業後、松前町、函館市内の小学校教諭などを経て、2013年から七飯町立鶴野小学校校長、知内町立湯ノ里小学校校長を歴任、2016年に函館市立大船小学校に着任し、現職に至る。

知内町立湯ノ里小学校では、渡島管内初のCS導入校として、立ち上げから加わり、地域密着型の学校づくりに努めた。